





あら…
お目覚めかしら？
勇者様。

睡眠魔法が
よく効いていたわね…
もう2日は眠っていたわよ？

うっ…
くっく…？

こんなに朝勃起
させて…。
ずいぶん貯めて
らっしゃったん
ですね？

むちっ♡

禁欲的な旅を
してきたようね！
女を買うどころか
オナニーもしていない
のではないかしら？

なっ…
貴様らは…っ

魔女の城に
攻め入った僕のは
目の前にいたのは
悪名高き魔女…
そしてその仲間の
淫魔の二人だった。

動けませんよ、
体が麻痺する魔法が
効いています
からね♡

おち○ぽ
以外は♡

いささかあなたは
経験値も精液も
貯めすぎのようだから…
私たちがこの城で
じっくりドレインして
楽にしてあげるわ♡

僕の下半身は
脱がされ、
ち○ぽが丸出しの
状態だった…。
そして目の前には
目を疑うほど
大きい魔女たちの
巨乳…

んっ♡
♡

んっ♡

レベル50あるから
勝てると思っちゃい
ました？

残念だったわね…。
私たちのレベルは99あるの
圧倒的な力とおっぱいの
前に屈しないさい…♡

何が起こっているのか
理解しがたかったが…
どうやら僕は
この2人に敗れ
眠らされていたらしい…
記憶が途切れている…



ほくら、
やわらかいおっぱいが
おち○ぽに
吸い付きますよ♡

どうかしら…
禁欲で感度の
上がり切った
ち○ぽを挟まれる
感触は？

うあっ…
あっ…あ！





どうですか、
おっぱいの中に
おち○ぽ監禁された
ご気分は？

ふふ！
射精するまで
何があっても
出られない乳牢よ
たっぷり味わうと
良いわ！♡

ぐっ！
あああああ
あああああ
あああああ…っ！

勇者様は
パイズリなんて
初めてじゃないん
ですか？

初めてのパイズリを
特大ダブルで…

しかも精を
溜め切った状態で
どこまで耐えられる
かしら？

ずりゃッ

めいっ

めいっ

ぐっ…
ぐっ…
ぐっ…

めいっ

めいっ

っ





ほおら…
どんどん早くして
いきますからね…♡
おち○ぽとおっぱい
融合させますよ♡

おっぱい圧が凄くても
まだ出しちゃだめ
だからね…
頑張っ♡

うあ…あ…
あ…あ…
♡♡♡



ほうら...次は
ブラなしの
生おっぱい責め
ですよ♡

中でち○ぽが
ものすごく硬く熱く
なっているわ...
もう爆発寸前ね...♡

みち

みち

みち

みちっ

みち

!!





まあ…
こんなに
ぐっちょやぐっちょに
して…♡

敵の女とはいえ
ここまで遠慮なく
ぶちまけるなんて…
勇者に
あるまじきな
行為よね…♡

ああ…
そ…そんな…
ち、違う、
僕はそんなつもりじゃ…

くっ…ちゃあ
どろ…♡
♡





信じられなかった…
まさかこのレベル50の僕が
敗れて、囚われてしまう
なんて…。

そして…
体に力が入らない。
それは睡眠とか、
麻痺の魔法によるもの
だけではない気がした。

聞いたことがある。
魔女やサキュバスと
交わったものは
射精とともに
弱体化すると…。

このとき
僕は気が付かないうちに
わずかにレベルを
下げられていたのだ…。



やつらは、
僕を自分たちの寝所に
住まわせようとしたが
僕は拒否した。

汚らしい魔女たち
などたちと
暮らすなどできる
わけがない。

魔女は僕の心が変わるまで
お仕置きの必要が
あるといい、
地下牢に僕をつないだ。
そのまま、
再度僕のち○ぽを握り
刺激をくわえていく…



ぐっ...
や...やめろ...
今度は
何をする
つもりだっ...!!

聞き分けのない
子には
お仕置きをしないと
いけないからね...
うふふっ...

ぐっ...
ちゅっ...
♡



くっ...
や、やめ...
触るなあつ...

は、はい、
し、し、し、
しまちようね...♡

し、し、し、
し、し、し、

ズ、ズ、ズ、
ズ、ズ、ズ、
♡

ううつ、
そんな…乳首を
吸われながら…

お手々だけで
いっちゃうのも
物足りないわよね？
もっと
感じさせて
あげましょうか…





実験用の
スライムを
使ってみましょうか
♡

ぐちゃあ♡

?!



うっ...
うあああ...

じゃあ
ぬぢゃあ
じゃあ
ぬぢゃあ

じゃあ
ぢゃあ

うふふ...
いやらしい音たてて
絡みついているわよ?
ぬるぬるしてて
たまらないでしょう?!



ほおら…
ぐちゅぐちゅに
かきまぜて
あげるからね…
おち〇ぽに神経を
集中させて…♡

う…?
ぐうあぁ
あ…!!

ぢゅるぢゅる

ぬぢゅぬぢゅ
ぬぢゅぢゅ



あ.....♡

うあ!!

とびゃるるるーっ!!
びゅーびゅー





スライム娘が
産まれちゃうのよ
ほら、
あなたの精子で
できた娘よ♡

うっ
うっ
あ!!

ニョ
+!!

ニョ
+!!



やはり、
魔女やサキュバスたちは
普通じゃない…

こんな所にいられない。
しかし、今の射精でまた
少し力が抜けた気がする。

脱出する隙をうかがう僕に
サキュバスは近づき、
ち○ぽに口をつけた…。

ふふ…勇者様ったら
もうこんなにおち○ぽ
元氣になってる。
さすがにすごい精力
ですね…

ちゃっ

ちゃっ…♡

くっ…
またいやらしい
ことをするつもりかっ!?
(まずい…また
力を抜かれてしまうっ…)

LV: 47



うふふ！
こんなに
おチンカス
溜めちゃつて！
綺麗にしないと
いけませんね？

うあぁ！
うあぁ！
うあぁ！

10
3
...

10
3
...



あ...
あ...ああああっ...

んん...♡
いただきまあふ...

くっ...♡









くうっ…
も…もっっ…
ああっ!

じゅわっ♡
ずるずる♡
ずっ♡
ずぶぢゅ♡
ずぶぢゅ♡
ぢゅ♡





は...離して...

あっ...あっ...

うふふ…
美味しかったですよ、
ごちそうさま…♡
またレベル下げちゃった
かしら…？

ちゃ…♡

ちゃ…

LV45

せ…精子を飲むなんて…
なんて卑猥なことを
するんだ…

(ぼ…僕のが、この娘の
胃の中に…っ)





サキュバスに精を
吸われた後、
僕は牢から出された。
次は魔女の相手を
させられるらしい…

僕はまだ女性経験がなく
童貞だ。
まさか初めての相手が
魔女だなんて…
僕は必死に抵抗したが
魔法でいともたやすく
組みふされ
裸にされた…



あら...それは
お気の毒だけど...
あきらめて...
ここ来た以上は
避けられないことよ...
私たちも長い間
我慢してて性欲が
抑えられないわ...

や...やめろ...
僕は経験がないんだ!
こんなところで...
純潔を失うわけには...っ

びん

びん



大丈夫よ…
優しくしてあげる
から…
私に身を任せて…♡

やっ…
や…やめ…



ほらほら...
おち○ぽを
飲みこんでいく
わよ...
「おま○」が...

お...
おまっ...

おま...
っ...

これよこれ…
みっちり全部…
ハマった…
あったかいでしょ？
うふふふ…♡





ぬるぬるして...
吸い付いて...
な...何か、
中がピリピリする...っ

あら...
ごめんなさいね
私の体は魔力が
染みついてて帯電
してるの...
ちょっとだけ
刺激が強いかも...

ぐっ
みちっ♡



うふふ…
気にしないで
私のま〇こ肉の
締めりを
感じてね…
んん…♡

あ…あ…
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡



うふふ…
私も感じてきた
せいか、
帯電が強くなって
きたわ…
んん…
もう止められ
なさそう…♡

じゅわん
ずいっ

あふん
じゅわん
ぬん

あくあ
あ…あ
あ…あ

あなたのち○ぽ…
私の中でどんどん
硬くなって…
もう破裂寸前かしら？
出ちやうの…？

出したら
できちやうかも…
魔女との
赤ちゃんできちやう
かもよ…？







ンン…
ン…ンン…♡
奥に染みてく…♡

あ…あ…
あ…あ…

あ…あ…
あ…あ…
あ…あ…

うふふ…
どうかしら？
初めて種付けした
気分は…
シビれるぐらいの
感覚だったでしょ

実際…
電流も流れてた
わけだけど…
この感触…
クセになったん
じゃない？

あっ…あああ…
な…なんてことを
…っ

ゴオ…♡
ゴオ…♡

ゴオ…
どろ…

ハァ…
ハァ…
ハァ…





僕は初めて童貞を
捨てた興奮とショックで
しばらく気が抜けたように
なっていた…
またさらにレベルがぐんと
下がってしまった
ような気がする…

魔女の
女性器の温かさ…
その感触がまだ
ち○ぽに残っている。
その余韻に浸る間も
なく、
サキュバスが
やってきて僕の
股間にまたがってきた…

レナス様とセックス
したんですね…
ずるいです♡
私とも本番
していただきますよ♡

LV : 39

だ…ダメだつ、
今日はもう
出し過ぎて…っ！

ぬち…♡



またまたあ…。
こんなにまだビンビン
じやないですか♡
いっぱい○玉の中に
精子残ってますよ♡

ち…ちがつ…

(うう…柔らかい
あそこの感触が…っ)

ふ、ふ、
ふ、ふ、
♡

手遅れ♡
もう入って
いっちゃいますよ…
うふふ…♡

あーっ！
うーっ！

す
ぬ
30 ぬ 30
30 30
♡



思った通り…
私のま○こに
ぴったりサイズです♡
相性抜群のち○ぽ♡
ま○こが
喜んで同化しはじめて
ますよ♡

そ…そんなっ…
(僕は勇者なのにつ…
サキユバスなんかとっ…)



あ…ヤバいです…
私も感じてきちゃいました♡
勝手に腰が動いてきちゃい
ます…♡
はあ…っ♡ん♡



勇者様のおち○ぽ…
中で痙攣してきた…
もう出ちゃうんですか？
忌み嫌ってるサキュバスの
中に精子出しちゃうの？

だ…
出さないっ…
ぼ…僕は…っ

ズチュッ

フチュッ

ズチュッ

いいんですよ…
こうやって、膣に
全部入れて締め付けて
受け止めてあげますね…
ほらっ…♡

きゅん♡
きゅん♡
きゅん♡

きゅん♡
きゅん♡
きゅん♡





あっ…くう…
子宮口に
ビュルビュル
ぶちまけられて
るう…♡



あ…

あ…

あ…

ゴッ

びしょ

びしょ

もおお！
こんなに出して！
受精確実じゃないですか！
しばらくお腹おつきく
なっちゃうの恥ずかしい♡

そんな！
そんな！
これは夢だ！
悪夢だあ！っ

ぬちゅっ♡
にゅあ♡

どっろっ♡



や...やめろっ

これ以上は...!

だーめ♡

-LV4

でも
気持ちいいん
でしょう?

いい加減にしろっ!
もう立たないっ!

-LV3

いい子いい子♡
じっと
してまちようね♡

-LV5

-LV1

も...
もうレベルが
...っ!
あ...ああ...

-LV8

-LV5

こうしてセックスを
していくうちに日々が
過ぎていき...
僕は、
魔女とサキュバスに
精とレベルを吸い取られ
みるみるうちに
弱体化していった...



そろそろいいわね？
もっと可愛くなれる
魔法かけちゃうわよ♡

性転換の秘法♡

な…
何を…っ！

僕のレベルが
充分に下がったのを
確認した魔女は、
僕に秘術をかけてきた。

魔法抵抗力が
弱くないと
かからない魔法
らしい…



ほおーら♡

とってもかわいい♡
これであなたも♡
女の子よお♡



えっ…!!?
ちよっ…待っ…
そんな…

一瞬の閃光が
走ったあと…

僕の体は丸みを帯び…

胸が出ていた。

僕は…
性転換させられたのだ…



僕は…女の子になって
しまった。
この前童貞を捨てた
ばかりなのに
もうち○ぽは使えない…
かわりに股間にあるのは
ピンク色のヒダのある穴…
そこを魔女とサキュバスに
いじられる日々が
始まった。





ほら...
だんだん
気持ちよく
なってきたでしょ？

女の子の
体のほうが男の
ときより
気持ちいい
はずだわ...
じっくり
感じてね...♡



あら...このあたりとかが
いいでしょう?
クリトリスって
言うのよ...
女の子のおち〇ぽみたいな
部分...

ああ...

むちゃ...

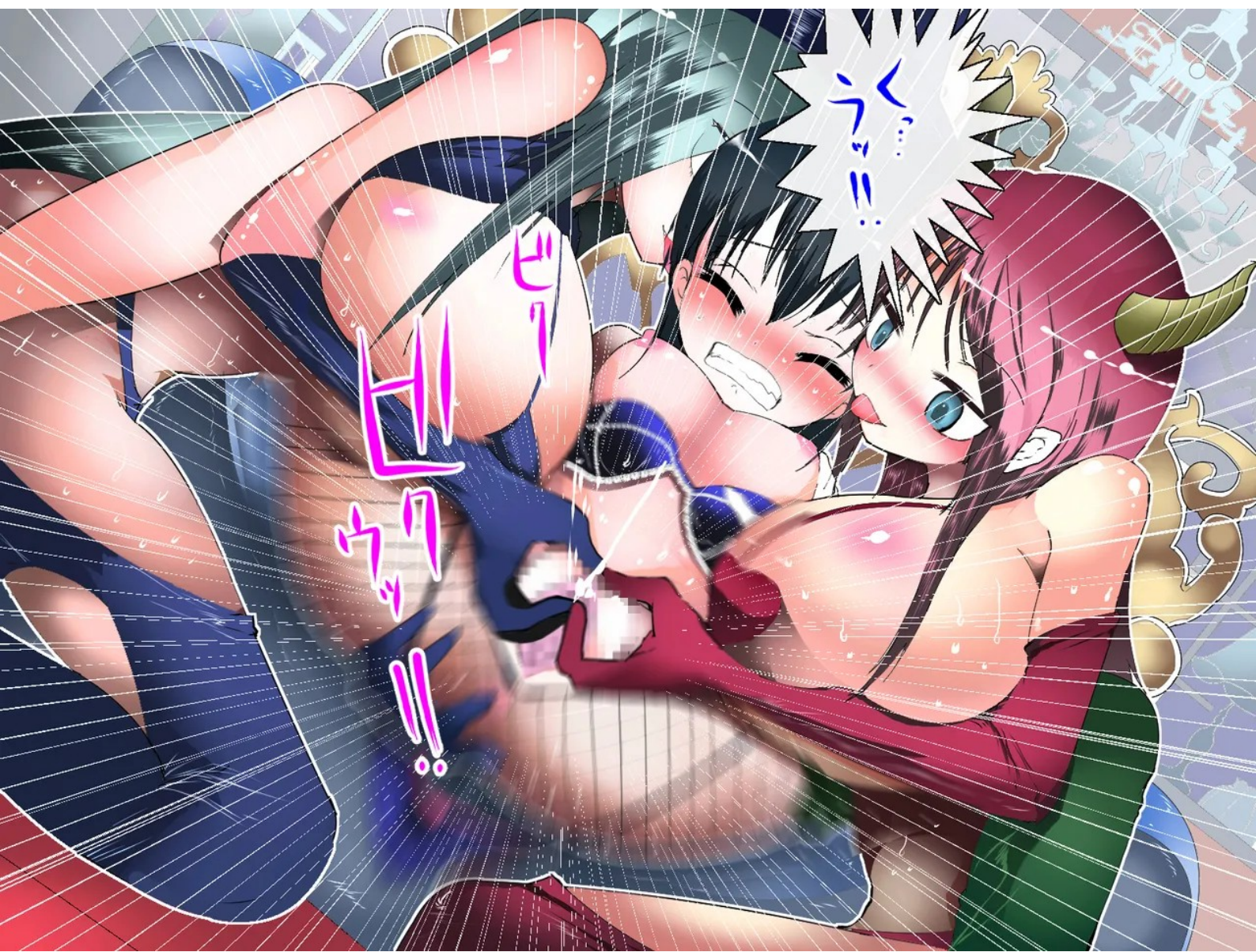
はっ

聞こえる？
おま○こから
いやらしい音
してるよお！

あー！
あー！

ほら…
少しづつ指を
入れてほぐして
あげる…♡
処女膜破らない
ように
気を付けながらね
…♡





ふふ…
今イきましたね？
初めてのメスイキは
いかがでしたか♡

あっ…くう
ああ…あ

すぐにイクなんて
感じやすい子♡
この感覚
きつとクセに
なるわよ…♡





女に変えられてしまい、
女性器をいじられまくった
僕：
しかし、それだけでは
終わるはずがなかった。
サキュバスによって
ハイエルフの修道女たちが
いる寺院に
僕は連れていかれた。

彼女たちはふたなりで
あるがゆえに自分の体を隠し、
神に仕え性欲を何百年も
封印していたらしい。
しかし、サキュバスの魔法に
よりそのモラルは
取り除かれた。
僕の体を見て、ち○ぽを
限界まで勃起させて
向かってくる……!!



勇者様…
本当に
良いんですか？
わ、私…千年も
オナ禁してるから
無茶苦茶
しちゃうかも…

い…良いわけ
ないだろっ！

ぞくぞく♡

感謝します
神さまっ♡

びんびん♡

むち♡

ハァ♡

ハァ♡

めづりん♡
むち、

ぷるん♡

オナ禁し続けた
ふたなり
エルフシスターたちの
溜まりきった
ドロドロ精液を
ぜろんぶ受け止めて
あげてくださいね♡





それじゃあそろそろ
私も頂くとしますわ…
ん…
バージン…
貰い受けます♡

ああ…お口の中
あったかい…
ヌメヌメして…
たまらないですわ…

ず
ぬ
う
う
っ♡

ぢゅる…
ピョ
ッ

ず
い
ろ
う
っ♡



ふおおおお
おおおおっん♡

あ…
ハメられちゃい
ましたね…♡
処女膜破れ
ちゃった♡

ぐちゃちゃ
…♡

ぶちっ
♡

すん!!





だめですわ：
脳みそまで溶けそう
オナ禁しすぎて
：気絶しそうなぐらい
ち○ぽの感度が
上がってますう…

こんなキツキツの
処女ま○こに
ハメたら…
もう出るっ…♡

こっちも出ますっ、
全部飲まないと
許しませんよおおお
おおおっ！





神よ欲望に負けた
私をお許しを…
このビッチを
孕ませたいですっ♡

孕めっ…♡

ゴッゴッ…

ゴッゴッ…

ゴッゴッ…♡

ゴッゴッ…♡

溜めきって濃くなった
真っ黄色の精液を
一滴残らず
飲んでくださいませ♡
んんん…あああっ♡
まだ出るっ…♡



すつきり
したあゝゝつ
ぜーんぶ
中に出し
ちやいました♡

はぁ...
はぁ...♡

ねちゃ...♡

どろ...♡

どろ...♡

おほ...♡

私のもほとんど
飲んでいただけたん
です♡
濃すぎて喉にひっかかる
かもしれないけど
よく味わってくださいね♡



ハイエルフの修道院で
もてあそばれた僕は
すっかりち○ぽの味を
覚えさせられて
しまった…

魔女とサキュバスも
魔法でち○ぽを生やし、
ふたなりとなって
僕と交わってくる。

女になった僕は
中イキするたびに
レベルが下がる感覚があり、
そのたびに耐えようもない
快樂が走った…。

ちよつとの間に
おち〇ぼ
しゃぶりが上手く
なつたわねゝ
才能あるわゝ
勇者くんゝ
いえ勇者ちゃん♡

ほんとですう、
このツルツル
スベスベのお尻を
見ると
バックから
ブチこみたく
なりますう♡

ん…んんっ、
ん…んんうっ…





お…おほっ♡
なんて
吸い付きなの
この子…
ち○ぽ大好き
なのね？

こっちも
すごい締め
ですよっ、
この子とつても
ビッチですよ♡

うううっ、
そんな…
むさぼるように
動かれたら…っ

んっ、そう…
口をすぼめて
思い切り吸うの…
とっても
上手だわ♡

こっちも
ですうっ！
このメスっ…
ま〇こ
ヒクヒク
させてます♡



…♡ 残したら
お仕置きだからね



うっ…
出るわ…っ

出し
ますっ♡

ドクッ!!
ドグビュ—ッ!!

まだまだ出るわ！
いい子だから
全部飲んでね…♡

こっちも…
受精してもらうまで
絶対に抜かない
ですう…





全部飲めて
えらいわね
なでなでして
あげちゃう♡

私も、
無理やり
犯っちゃって
ごめんですう♡
勇者ちゃんのこと大好き
ですよ♡

ふわ♡

ぐわ...
どろ...

え...
もう終わり？

はあ...
はあ...♡



僕はいつのまにか
他人のち○ぽに対して抵抗が
なくなっていた…
むしろ、ち○ぽを前にすると
体が熱くなる自分がいる。

女になると精神までも
変わってきてしまうの
だろうか？
認めたくなかった…

魔女たちは僕の様子を見て、
さらにこの体を開発したく
なったのだろう…

ち○ぽ以外のモノも
使って、僕を責めたててきた。



くっ…
これ以上何を
するつもりだ…!!

ほんと、
かわいいおケツ
してるわね♡
いじめたくなっちゃう♡
ぐらいプリプリ♡

ぷりっ♡♡♡♡♡







この子もね、
あなたの精子から
試験管で
生成したのよ…
あなたの娘も
同然よ♡

しゃ…
しゃべった？
なんだ…
こいつ…っ

やっほー
びっちまま！

くしゃ…♡



な...何が
ママだ？

ふざけるな！

あ...

う...

たしかに
あなたの精子から
作ったから
ママなのか
パパなのか
わかんないけど...
胎内に帰してあげて♡

ず...

ぐ
ちゃ
ちゃ

♡



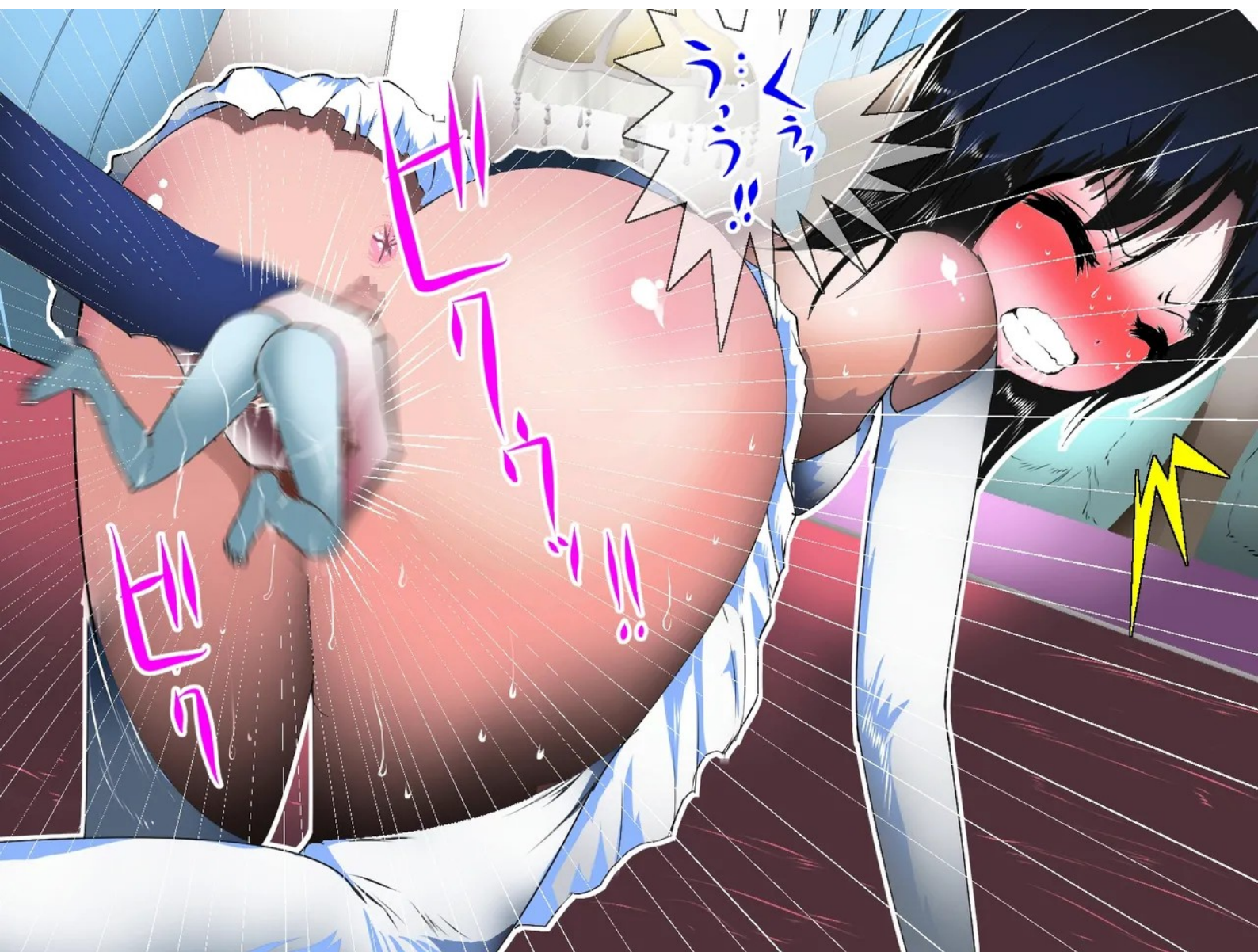
うぐあ...

ズッ

ズッ
♡

ズッ
ズッ
!!

ほらほら...
力抜いて...
だんだん
良くなる
から...♡





だめだ…っ
ここいると
頭がおかしくなる…
こいつらは…
まともじゃない…

ままも
だよー

ふふ…
そうよ、あなたも
普通じゃないわ…♡
すごい感じ方だもの…♡

わち×…♡

♡…♡…♡



それから月日が経ち、
僕は街に戻してもらった。
だがそれは魔女たちからの
解放ではない…
彼女たちは女になった僕を、
僕のパーティーメンバーに見せ
させようとしたのだ。

しかも…
おっぱいが小さい僕を、
魔女は魔法で
ものすごい爆乳にした。

爆乳をふらさげて
パーティーメンバーのいる
酒場に戻ると、
仲間だったスケベな男戦士が
興奮して僕を路地裏に
連れ出した。



う、うるさい！
魔女にやられたんだ…
お前こそいきなり
こんなことさせて…！

勇者、お前ったら
なんなんだよ…
こ、こんな爆乳の女に
変わってさあ…

戦士のやつは
僕のことをギルドに
秘密にして
かくまう代わりに
パイズリを
要求してきた…



はあ!?
何言って…

でもいくらなんでも
魔女の言うなりに
なりすぎじゃない?
このまま逃げることも
できたはずだしさ…
実は女の状態に
ハマってんじゃない?

むんず…

プク
プク
プク



そういう言葉遣いは
良くないよね…
もはや女でしょ？
もっと可愛い言葉使
いたほうが
いいんじゃない？

「わかったわ
って
いってみ？」

何…っ





あゝっ、
あっあっ、
しっとりした
モチ肌が
吸いつく…
完全に若い女の
肌だ…

くっ…

フュー

ズリ
ユズリ
♡

フ
♡

フ
♡

フ
♡

フ
♡



もっと乳圧強めて？
ぎゅーっと
ち○ぽを抱きしめる
ようにね！

そうっ、
そうだよ！
くうくう

うう…
(ち○ぽ…熱くて
ビクビクしてる…)

しゃい

っ♡♡





こみあげてきた
……！
孕めっ！俺の子を
乳孕みしろおおおお
おおおお！！

……！





まだまだ：
完全に受精するまで
抜かないからねっ：
：：
全体にしみ込んだら
そのおっぱい
広げて見せてみ？

ゴホ...

ゆちゃ...

ドロ...

♡

うお...

♡

うわゝ！
すんげ！
完全に精子に
マーキングされた
乳…
ぐっちゃぐちゃの
ドロドロだ…

……
（何この凄におい…
脳まで浸食されそうな
においだよお…）





それから月日経ち、
宿代が底をついた
僕は酒場の踊り子として
路銀を稼いでいた。

そして以前仲間だった
獣人の女に声を
かけられた…。

ジョブのない遊び人だった
その女は、
実はふたなりであることを
僕に打ち明け、
僕：いや、あたしを
一晩買いたいと
申し出てきた…。



あ、遊び人…
やっぱりやめない？
…お金で体を売るなんて
間違ってる…

今更
何いってるのお？
勇者ちゃん…
それにしても
かわいくなっ
たわね☆

ビ
キ
ビ
キ



あたしの
メスチ○ポ
もう
びびきだよろ☆
早く勇者ちゃんの
ま○こ
ハメ倒したい☆



あ……っ

んじゃあ、
いったき
まゝす☆

めっ♡

すっ♡
ぶっ♡
ぶっ♡
ぶっ♡



あっ…
はうっ…
あっ…うう…ん♡

このごろは、
自分でも驚くほど
メスっぽい声が
出るようになっていたの
…
おち〇ぽが気持ちよくて
たまらない…

あっ…すい…☆
すいよ…
このま〇…♡

あ：おち○ぽ、
奥に当たってるよお♡
きもちいい♡
おち○ぽ…
きもちいい♡

ほんと？
よかったあ…☆
じゃあ、たっぷり
中出しして
あげるから受精
してくれる？





受精…したいよおっ、
お願い…
させてえ♡
…精子欲しい♡

うんっ！
わかったあ
今出してあげるっ！☆
私の赤ちゃん産んでね！
きちんと産まないと
だめだよおおお！





うん…
しゅき♡

あ…あう…
は…あああ…

たっぷり出たよお…
勇者ちゃん
精子好き？

そっかあ…
ビッチになっただね…
勇者ちゃん☆

くわ…
くわ…
くわ♡

くわ…
くわ…
くわ…

毎日快樂に溺れ、
精を吸い続けている
うちに私の体に
変化が起こった…

翼が生えてツノも生えて…

自分が
淫魔として転生していくのが
わかった。

魔女は言った。
「私の魔法で女体化した
中で、本当にHが好きで
永遠にセックスしたい子は
淫魔に変わっていくのよ」
と…

私は、本当は勇者なんか
じゃなく、セックスして
本能のままに生きたいって
思っていたのが
やっとわかった…





サキュバスに転生して
だいぶ月日が経って…

今日は魔女様に
耳かきとマンかきを
してもらいました♡

とっても
気持ちいい♡

サキュバスに転生して
本当によかったあ♡

毎日幸せでしゅ♡



いっぱい吸精して
立派なサキュバスに
なれたわね♡
眠くなるまで
じっくり耳かきと
マ○コかきして
あげるから
おやすみなさい♡

ありがとお…
もう絶対
勇者になんて
戻りたくない♡
みんなと
中出しセックス
大好き♡

サキュバス
LV30



このあたりが
いいでしょう？
全部かきだして
あげまちゅからね…♡

あつ…あつ、あつ…
レナスママあゝ
そこ気持ちいいよお♡







とろろにちゃあ!!

えへへ…
きもちいい…♡

このごろは
ちよつと触ったらすぐに
イっちゃうんだから…
まあいいわ…
何もかも忘れて…
おやすみなさい♡



女性になり
サキュバスにまでなり
性の喜びを満喫した
私…
それは今までの私では
考えられなかった
世界だった…

ある日、魔女様は
私のエネルギーを注入し
元のレベルに戻してくれた。
そして、もう十分性を
体験できただろうから
戻りたければ
勇者だったころの姿、
普通の男に
戻してあげてもいいと言った…



そこで初めて、
魔女様たちは
堅物で童貞のまま
生涯を終えようとしていた
私を助けてくれたことを悟った…
これで私は、
勇者に戻ってもバランスの取れた
人生を歩むことができるだろう…

でも…私はサキュバスから
人間に戻してもらったけれど
男に戻ることは今は遠慮した。
まだ足りなかった…
もっと気持ちよくなりたかった。
今日は、ふたなりの
女騎士に宿屋で
バージンだったお尻の穴を
捧げることにした。



ついに
ケツまでも
明け渡すのね♡

え…ええ、
かまいません…
でも優しく…
お願いします…

ほ、本当にいいんだな？
初めての
ケツの穴に私の太いのを
ブチこませてもらうぞ…
あとで後悔するなよ？

びん♡

びんっ

はぁ

はぁ





ほら...
全部ハマったぞお！
この欲しがり
ケツマ〇コめえ♡

あ...♡
あ...♡
あ...♡

♡♡

♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡



やあっ…
もっと…
優しくぅ…っ

いい締めまりしてるな♡
私のち○ぽの形に
たっぷり
押し広げてやるからな♡



くっ…
締めりがどんどん
強くなるじゃないか…
もう出るぞ…っ
ケツ内で受け止める
…っ♡





あうっ...あうっ
あああああ...
はあ...んん...あっ♡

ズロロロ♡

どろろ...

にゃあ♡

うう...
ち○ぽに
吸いついてくる...
なかなか抜けないぞ
この穴...♡
くうっ...♡



完全にメスの声
出してイキおって..
どうだ..
初めてで
痛くなかったか？



氣遣いの言葉をもらって、
僕は安心した…

ただ、むさぼり合うだけの
セックスでは
ここまで僕がのめりこむ
ことはなかっただろう。

彼女たちの内に秘めた
優しさが僕が求めて
いたものだった。

ゴロ

ゴロ

ゴロ



もっと…
愛されたいと
僕は
心から願っていた…♡

僕が男に
戻る日はまだ
もう少し先に
なりそうだ…

END

















































































